

◆水明インターネット句会◆ 令和七年一月

(1)

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
年賀状一人二人と仕舞状	現世を日延べし太る氷柱かな	無慘やな極寒のビル傾ぐま	寒の内老いて目につく微塵かな	城壁の栄華を見知る寒椿	只管に前へ前へと初詣	雪深し柿の実喰らうカラスあり	遠富士の影きはやかに初御空	霜日和青信号を早番へ	初席や縁起かつぎの太鼓鳴る	横溢の眼間にあり枯はちす	客用の布団の並ぶ冬座敷	毛糸編む魔法の棒に操られ	瑞光の満つる母郷の初山河	年用意をゑコツプ酒老主筆	妻に似た笑顔眩しき雪達磨	二人して孫の写メ観る日向ぼこ	大雪や行平鍋の味噌拉麺	餅搗きの妻の濡れ手にスマホかな	值引きしたセロリは何かいひたさう

◆水明インターネット句会◆ 令和七年一月

(2)

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21		
満を持し魚釣に行く三日かな	空耳か響く琵琶の音初弁天	冬牡丹の開かぬ薔薇がぶせ藁	初鴉吉兆の声ひびき満つ	過ぎし日々子と語らひて老の春	すなどりの船の勇まし初日の出	わだかまり神に預けて年迎ふ	日溜まりや花びら餅の紅ほのか	まだ知らぬ明日はひたひた初暦	福娘笠に付けたし戎顔	注ぐ湯の音の華やぐ初御空	孫帰りおのれに返る松三日	プラチナの初日へ合はす掌	胸張りて神の使ひや初鴉	団らんの真ん中にあり絵双六	過ぎしこと下へ下へと除夜の鐘	否めず香を放ちゐる沈丁花	健吟の古希喜寿米寿初句会	肩先にくの字重ぬる六花かな	淑氣満つ喜寿の社長の長眉毛		

◆水明インターネット句会◆ 令和七年一月

(3)

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41
細氷や朝の窓辺のキラキラと 大寒や小鳥とびかう空のあり 埋め尽くす灯台の丘野水仙	金色の折羽鶴かな初明り 鮫鱗や七つ道具は蒔絵箱	本当は男の子なの雪女 医院長の笑ふ看板年新た	幕間は春着の勝負砂被り 恋の糸結びほつれしきれ道	大寒の雲は重たし那須五峰 奥宮の太き木立や年明くる	ゆらゆらとジンのグラスや冬の海 路上駐車客も溢るる正月よ	向かい風受けて笑いて年新た 挨拶を終ふ葉書や初便り	霜焼けの耳に久しき妻の愚痴 朝刊の活字踊るや白き梅	この話前にもしたね帰り花 年の瀬や担保競売自己破産	名がふたつ云へずに吹くや七草粥	◆水明インターネット句会◆ 令和七年一月									

◆水明インターネット句会◆ 令和七年一月

(4)

◆水明インターネット句会◆ 令和七年一月

(5)

◆水明インター ネット句会◆ 令和七年一月

100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81
松明の路地にただよふカレーの香	不忍の池枯蓮の茎ポキポキと	元旦や海魚の跳ねてまた跳ねて	小寒の夕陽ほのかに暖かし	振り返る足裏ももいろ嫁が君	張り裂けてしまへ吾が胸寒椿	篝火草微かに香り来し方へ	双六より花札が好き酒を持って	春著着て他人行儀の娘かな	寒晴や本堂の香透きとほる	無愛想隠すマスクや出勤日	寒月やフワツと昇る観覧車	蝶梅の花びらに透く梢かな	赤ちゃんもペツトもよそ見初写真	めでたきや新婚さんの初礼者	どさまはりのしがない恋や春まけて	奥能登の蒼白き月汎返る	初声や鳩くくくると隣家より	絵描きには踊るヤパンの臥竜梅	大晦日鍋ふつふつと二人夜や

◆水明インターネット句会◆ 令和七年一月

(6)

120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101
四日ぶりレジのお仕事初鏡	別れ歌だけの便りや冬銀河	成人祭鳶舞ひ神輿海に入る	肉球に触れて添い寝の小六月	春近し幾つもこなす露店商	買出しに大福追加寒波来る	公園の朽ちし木伐るや虎落笛	落鱸怒れるときは口を閉ぢ	一湾の帯のやうなる春夕焼け	木枯や菩提寺の僧蓄髪す	大寒や拳も固き人の波	円陣を組むラガー児ら息白し	粗衣裸足仁王の前の春着かな	太鼓ライブの腹にひびくや寒の晴	“生”の字に石ひとつ積む阪神忌	吾を呼ぶ肉付き良かる雪女郎	ギリシャ神遊ぶ天空星汎ゆる	ぼろ市の人流れに眩暈かな		

◆水明インターネット句会◆ 令和七年一月

初雪や土鍋の蓋のコトコトと

大寒や鳥居過ぎれば鳴る太鼓

葉牡丹の並べは学校近く有る

新景色分け行く二人の小径かな

(7)

◆水明インター ネット句会◆ 令和七年一月